NIKKOR CLUB 2023年12月1日発行 年4回6・9・12・3月発行 No.275

nikkor club

275
2023 WINTER

特集
多彩な表現力で
モノクロ写真の
世界を再発見

Nikon

nikkor club
No.275
2023 WINTER

CONTENTS

表紙写真 山口規子

柳行李は、兵庫県豊岡市の伝統工芸として今も愛され続け、この道30年以上の柳行李職人の寺内卓己さんは、毎日「たくみ工芸」で行李を編んでいます。踏み板の上に乗り、かがんだ姿勢で右から左から柳に麻糸を通すやり方は昔も今も変わらない光景です。
Z f・NIKKOR Z 40mm f/2・f/8・1/250 秒・ISO1600

特集　多彩な表現力で
09 モノクロ写真の世界を再発見
写真・解説　大西みつぐ／秋山華子／山口規子

02 仲間と楽しむ・つながる!
PHOTO HUB by nikkor clubのご案内

コンテスト

34 サロン・ド・ニッコール カラーの部
選評：ハナブサ・リュウ

46 サロン・ド・ニッコール モノクロームの部
選評：大西みつぐ

54 ネイチャー・フォトサロン
選評：小林紀晴

62 チャレンジ・フォトサロン
選評：佐藤倫子

67 予選通過者一覧

68 総評・得点表

70 ワンポイントアドバイス

作品

04 THE GALLERYセレクション展
ゴルフ報道写真の軌跡
ゴルフ浪漫 ～夢と希望に満ちた時代の残響～
河橋 將史　ゲーリー小林

06 THE GALLERY企画展
白鳥真太郎 光と影、色・形
白鳥真太郎

表4 秋山華子×Z f

製品情報

26 PRODUCT REVIEW VOL.25
Z f　上田晃司

32 ニコンダイレクト特別販売
NIKKOR Z 26mm f/2.8
ニコンカレンダー2024年版
ニッコールクラブ70周年記念グッズ
限定セット

連載

表2 鉄路彩々
奇跡的な瞬間を残す　助川康史

22 エプソン　楽しくきれいにプリント講座　vol.18
エプソンプリンターで取り組む
作品づくり③　茂手木秀行

24 私のライフワーク　第11回
ストリートフォトグラフィー　上田晃司

26 受賞者の〝いま〟
第71回 ニッコールフォトコンテスト長岡賞
瓜田英司　文・写真：池谷修一

30 アベっちの使った! 撮った!　vol.3
NIKKOR Z 26mm f/2.8　阿部秀之

33 Let's Go Nikon College！　第18回
『Z f発売記念 特別講座』ご好評につき再開講
モノクロ・ストリートスナップを愉しむ　コムロミホ

インフォメーション

08 写真展スケジュール

71 会員写真展　PickUP！
「昨日 今日」ニッコールクラブ池袋支部／
「愛車と共に半世紀」上田禎亮

72 NCニュース

76 イベント情報

79 支部だより

表3 楽しく学べる！ 写真教室 Nikon College

巻末 ニコンダイレクトFAXご注文表
ニッコールクラブ登録情報変更依頼書
会報276号フォトコンテスト応募規定

仲間と楽しむ・つながる

ご登録はお済みでしょうか !?

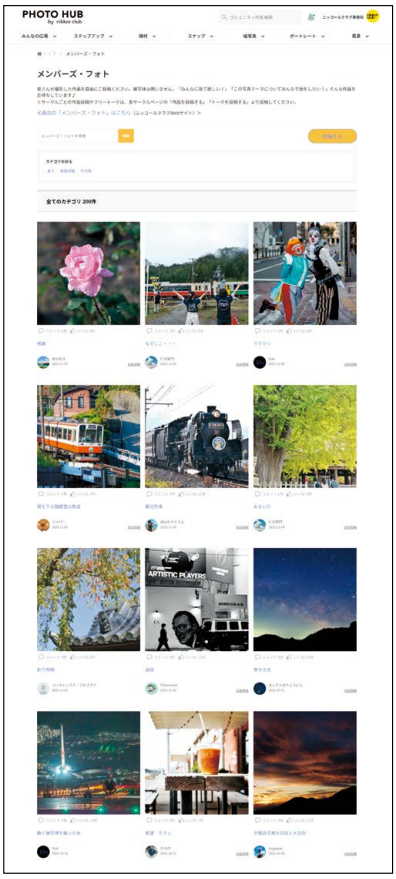
9月にスタートしました「PHOTO HUB by nikkor club」。すでにご登録いただいた方はありがとうございます！ ニッコールクラブの会員で、メールアドレスをご登録いただくと無料で参加していただけるコミュニテイサイトです。

会員であればどなたでも「メンバーズ・フォト」に作品を投稿したり、「メンバーズ・トーク」で質問や意見を交換するなど、会員同士の相互交流をお楽しみいただけます。

コミュニティーサイトへのアカウント登録後、被写体テーマ別に用意された「サークル」を選択いただくことによって、ワークショップ（少人数での撮影体験）や、オンラインセミナー（Zoomで実施）に参加していただくことができます。

左ページの登録方法をご確認の上、皆さまのご参加をお待ちしております。

メンバーズフォト



トップページ

メンバーズ・フォトでは、作品を投稿するだけでなく仲間の作品を閲覧することも可能です。

トップページには、現在募集中のイベント情報を掲載。気になるイベントがあったらサークルに登録してください！

アドバイザーの先生方のご紹介ページも！ 先生方 も PHOTO HUB に 参加してくださっているので、あなたの作品に「いいね！」がつくかも！？

ご登録の流れ

「PHOTO HUB by nikkor club」に参加するには、右のURLにアクセスしていただくか、QRコードよりアクセスしてください。すでにメールアドレスをお持ちの方は、すぐにご登録ができます！

PHOTO HUB
by nikkor club

https://nc-community.nikon-image.com/users/sign_in

1 PHOTO HUB by nikkor club にアクセス。「ニッコールクラブでログイン」をクリック。
※画像は 11 月 8 日現在の表示画面です。

2 ニッコールクラブ会員ログインページに遷移しますのでログインをしてください。ニッコールクラブにメールアドレスを登録されていない方は「メールアドレス未登録の会員の方はこちら」からメールアドレスの登録をお願いいたします。

3 PHOTO HUB by nikkor club の登録画面。
登録に必要な情報を入力してください。

- ⓐ 表示名：PHOTO HUB 上でのお名前になります。ニックネームでも大丈夫です。
- ⓑ 所属サークルの登録：参加するサークルは最大 6 つまで登録が可能です。アカウント登録後にマイページにて変更可能です。
- ⓒ アカウント登録：登録が完了したら、投稿、閲覧をすることができるようになります。お気に入りの作品に「いいね」をしたり、トークページで仲間とお話ししたりしてみませんか？

4 マイページ画面

- ⓓ メール設定、プロフィール設定について：画面右上のアイコンをクリックすると、アカウント設定を行うことができます。
- ⓔ プロフィール画像を登録できます。
- ⓕ 新着投稿の通知メール：「新着投稿の通知メール」にチェックを入れると、コミュニティに新しい投稿が行われた時にメールが届きます。
- ⓖ 所属サークルの変更：所属サークルの変更ができます。

※画面は開発中のものであり、デザインや表示色等変更になっている場合がございます。

Monochrome Photography

多彩な表現力で モノクロ写真の世界を再発見

モノクロ写真は、いつの時代も情緒豊かな世界を写し出してきました。色のない中で感じる深い表現力は、独自の美しさを持ち、鮮やかな色調ではなく、光と影の対比が紡ぎ出すドラマに創作意欲が湧き上がります。そんなモノクロ写真の面白さを再び感じてみませんか？モノクロ写真の魅力についての考察、光と影の表現力について、またＺｆの新機能について解説します。

Chapter 1

大西みつぐが伝えたい

モノクロ写真の魅力ふたたび

Chapter 2

秋山華子が伝えたい

光の質を見極めて多様な表現力をつける

Chapter 3

山口規子がおすすめする

Ｚｆが可能にするモノクロの幅広い表現力

大西みつぐが伝えたい

モノクロ写真の魅力ふたたび

大西みつぐ＝写真・解説

Chapter 1

1968年、下町のお祭りを撮ったモノクロ写真がカメラ雑誌に「佳作」として掲載される。高校写真部の暗室に入るのが楽しくてたまらなかった。

多彩な表現力で

モノクロ写真の世界を再発見

「カラー写真」が世に出てくる以前に「モノクロ写真」は写真の歴史とともにありました。そして現在でも常に個性を発揮させねばならない写真表現の華であり続けてきています。美術館などで写真の歴史に照らし、内外の名作モノクロプリントをじっくり見ると、とても豊かな気持ちになるものです。一体なにがそれほど魅力的なのか。少し考察してみましょう。

しっかりしたモノクロ作品といえるものは「WONDERLAND」という下町の街角で撮った1970年から2006年までのシリーズがすべて。6×6判カメラで撮っていた頃（1985年）の隅田川。

モノクロ写真の魅力❶

暗室で体験した豊かな時間

ニエプス（仏・1765-1833）のヘリオグラフィー、ダゲール（仏・1787-1851）のダゲレオタイプといった画像を固定する方法から生まれた写真術は、タルボット（英・1800-1877）のネガポジ法で基本が出来上がりました。写真をつくるための「暗い部屋」の存在は秘術のようなものに感じられた一方で、1860年代にはヨーロッパで「名刺写真」に愛しい人を焼き付けた写真が流行りました。社会の変化とともに肖像画に変わる写真が果たした役割は大きなものがありました。

そうした歴史を考えていきますと、私たちが今、普通に「写真」と呼んでいる画像には、不思議な魂のようなものも宿っているかもしれないと思うこともしばしばです。思えば、フイルムを使い、撮影（露光）後それを現像し、得られたネガ像を引伸し機でプリントする一連のプロセスは「暗室」という特別な空間で処理されてきました。フイルムや印画紙、薬品の銘柄を選び、現像液などをつくり、数々のテクニックを駆使し一枚のプリントを作り上げることが最大の醍醐味でしたが、同時に、その（暗室に）流れている静かな時間に自分が向かい合うこと自体がなによりも楽しみであったのは、きっとどなたも感じていたと思えます。

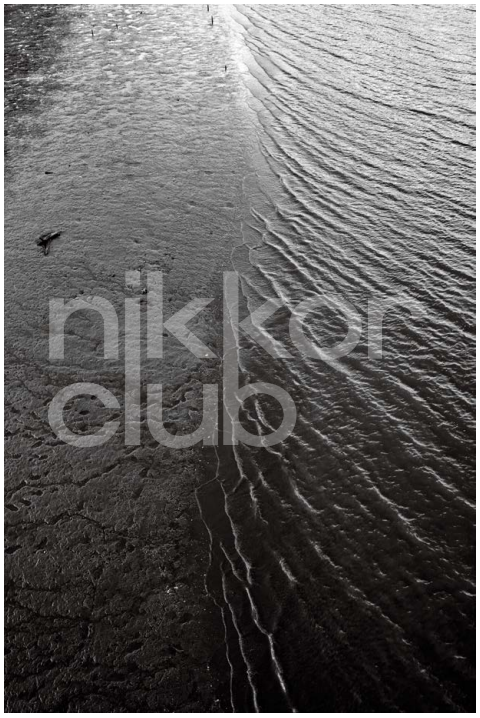
時は移り、すでにそうした暗室作業を行わなくなったとしても、暗室で体験した豊かな時間を今再びデジタル画像による作業に置き換えてじっくり味わうというスタンスに立つことで、みなさんのモノクロプリントは俄然輝きを増すように思えます。

この夏、ニコンZ 8で深川の「灯籠流し」を撮った。「灯篭」が川を流れる風景はカラー、それを見守る人々はモノクロで撮影。どちらもISO3200の高感度。かつてはモノクロで再現するのはほぼ困難な状況だったはず。（写真展「川の記憶、水の夢」より）　Z 8　NIKKOR Z 50mm f/1.8 S

モノクロ写真の魅力❷

「階調」の美しさを知る

一口にモノクロ写真といっても、黒と白色だけで成り立っているわけではありません。中間色として「グレー」が含まれています。そして白から黒までの間にこのグレーが細



水を撮るというのもめずらしいが、じっくり観察していると多彩な変化が見て取れる。右下の「グレースケール」のような「階調」をそこに感じ、撮影露出、画像調整など慎重に行うことで、イメージをきれいに再現させていく（写真展「川の記憶、水の夢」より）。
D850 AF-S NIKKOR 28mm f/1.8G

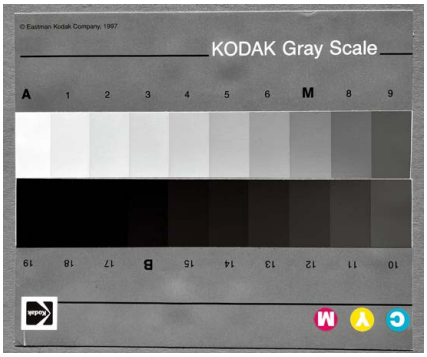
この夏の写真展「川の記憶、水の夢」から。久しぶりのモノクロ作品展だった。モノクロならではの深いイメージを慎重にレンズワークとトーンに託す。下町の友人がこの写真を気に入り購入してくれた。 Z 50　NIKKOR Z DX 50-250mm f/4.5-6.3 VR

かな濃淡の段階（グラデーション）となって表れ、階調が構成されます。モノクロ写真はこの階調にイメージが大きく左右されるのです。

かつてコンテストでは「ニッコール調」という言葉をよく聞きました。高めのコントラストで、白と黒を大胆に突きつけることによって写真の内容をより印象づけようという時代だったのでしょう。

フイルムでの表現とは別に、デジタル画像では RAWデータでの撮影、画像処理により細かな階調も表現されますから、これまでみなさんも風景撮影などでお世話になっていたことでしょう。モノクロ写真もこの階調の美しさを作品に留めるということを実際の制作に生かしてみるべきです。そのためには、あらためて「光と影」の存在を意識する必要があるかもしれません。「モノがあって、そこに影がある」ところまでは見つけられるのですが、その影も一律黒いものもあれば、濃淡を伴うものもあります。それによってそのモノの質感も違って見えてきます。あるいは、こちらのポジションによって光と影は微妙な変化を見せます。その細かな変化もまた興味深いものがあります。

これらはすべてモノクロ写真の目線でとらえられていることが大事です。後から気まぐれに「カラー」をモノクロに簡単に置き換えるということでは、撮影現場で見えてくるものとその反応が大きく異なるでしょう。



かつて製品として販売されていたグレースケール。白から黒までの「階調」をフイルム、印画紙のテストなどにおいて再現させるというもの。グレー色の違いを改めて認識したい。

モノクロ写真の魅力❸ 語りかけてくるイメージを受け入れる

日本の写真に限らず、歴史に残る世界のモノクロ写真作品を美術館などで直接鑑賞してみるとよいでしょう。具体的な色彩がないのに、こんなにも語りかけてくるイ

「カラーからモノクロが簡単にできる」ということでなく、モノクロモードと決めて大胆な作画をすることの面白さ。そこに気づいた人のみ、あらためて「写真の歴史」に立ち会えるものかもしれない。そこに語りかけてくるイメージが見える。ニコンZ f、Z70-180ミリf2.8

Z fの「ディープトーンモノクローム」で撮影。同じような水辺での撮影だが、使用レンズの違いもあるが、そこで何を捉えようとしているかに大きな違いもある。点景として入る2人の人物、大きな樹、快晴の空。それらを統合するイメージが「ディープトーン」。Z f　NIKKOR Z 40mm f/2

Z fの「フラットモノクローム」モードで撮影。柔らかなトーンながらもしっかり中間の調子があり、この風景に接した時の感情も甦る。そこにささぐ眼差しのありよう、世界の美しさをじっくり引き出していく。Z f　NIKKOR Z 70-180mm f/2.8

メージというものがあることに気づきます。そこには、当然、時代と社会、あるいは風土や人間の営みなどが丹念に表現され、私たちがいかに生きてきたかが記されています。それらが一枚の薄い紙（印画紙）として残っていることにも改めて驚き、「写真」とは凄いものだと思わずにはいられなくなります。

モノクロ写真に、私たちは色彩の美しさを見るのではなく、そこに内在されている世界そのものを感じようとします。その上で、もう一度その写真から色彩をも感じ、あたかもそこに立って「そのもの」を見ているような気にもなってきます。モノクロ写真を介在とする深いところでの代理体験のようなものでしょうか。それはある時には哲学的なものかもしれませんし、極めて個人的な記憶の領域かもしれません。少なくともそこで私たちは思慮深い時間を少しの間経験します。モノクロ写真の魅力はここにあるような気がするのです。

Column

高品質モノクロプリントの夢

株式会社DNPメディア・アートではネガ原板を高画質デジタル撮影後、画像処理しオフセット印刷として高画質モノクロプリントをつくるという試みが進んでいる。すでに大門美奈さんの写真展、武蔵野美術大学美術館での大辻清司さんの企画展に導入された。印刷技術による均一な光沢感や無彩色のインクの均一な色味。さらに鮮鋭度と階調性は商業印刷をも超える高いものがある。アルミ版によるオフセット印刷。それは美術作品のリトグラフのようでもある。こうしたプリント（オリジナル印刷物）が今後どのように写真表現の世界に受け入れられるか、あるいは商業的な展開として期待できるか未知数だが、高品質なモノクロプリントの夢はデジタルカメラの進歩と並走しながらしっかり続いていくはずだ。

Chapter 2

秋山華子が伝えたい

光の質を見極めて多様な表現力をつける

秋山華子＝写真・解説

雨が上がり太陽が顔を覗かせた瞬間。強い光に照らされ、花びら一枚一枚に影が生じたことで、立体感が生まれていた。水滴の煌めきが引き立つアングル、濃淡の美しさが感じられる角度から撮影。高いコントラストによりダリアから力強い生命力が感じられる仕上がりになった。
Z 8・NIKKOR Z 24-70mm f/2.8 S

多彩な表現力で
モノクロ写真の世界を再発見

被写体の形や質感が強調されるモノクロ写真

一括りに「モノクロ写真」といっても、「色のない写真」と単純に片付けられるものではありません。白から黒、中間色であるグレーの濃淡から成るモノクロ写真は、被写体の形や質感を強調され、肉眼では見ることができない被写体の「本質」と「存在感」が浮かび上がらせてくれます。

「素敵なカラー写真」から色を除けば「素敵なモノクロ写真」になるわけではありません。モノクロ撮影においては、色に惑わされず、光の「質」を見極めて撮影することが大切なのです。光の質によって、モノクロ写真の明暗や濃淡の出方が変わり、幅広いモノクロ表現へとつながっていきます。

故に、撮影段階からモノクロ写真を意識した撮影が重要となります。カメラに搭載された「ピクチャーコントロール」機能のモノクロで撮影できる設定を活用し、その都度、仕上がりを確認しながら撮影してください。光が写真にもたらす効果を実感しながら撮影することが出来る上に、光を見極める能力が養えます。

撮影の際は、天候や季節、時間、環境など、それぞれの光の質を目で見定めながら、被写体を探して対峙します。さらに、自分の立ち位置やアングルを微量に調整し、光の強弱が織り成す濃淡を最も印象的になるよう、最適な露出設定で切り取ります。そうすれば、色彩から解放されたモノクロ写真は、様々な印象を持った〝特別な物語〟を語りはじめるでしょう。

曇り空の下、均一な光に照らされたシーンで、蝶が花心に頭を入れて蜜を吸う姿が幻想的に感じられた。その雰囲気を引き立たせるため、背景をぼかし、露出を明るく仕上げた。ピクチャーコントロールの調整画面で、フィルター効果をイエローに選択することで、鮮やかなオレンジ色の百合の花は明るいグレーとなり、蝶が映える濃度となった。
Z f・NIKKOR Z 28-75mm f/2.8

表現をコントロールするモノクロの世界と光との関係

よく晴れた屋外や日向と日影が混在した場所など、強い光の下で撮影された写真の濃淡は、中間トーンのグレーが少なく、明るい部分の白と暗い部分の黒との差は大きくなり、コントラストが高く、硬い印象の仕上がりとなる。影とハイライトが強調されるため、鮮明かつシャープな輪郭や強い対比構造を作り出すことができます。

一方、曇りの日や日陰、屋内など、弱い光の下で撮影された写真は、中間トーンのグレーが多く、明るい部分と暗い部分の差は小さくなり、コントラストが低く、柔らかい印象の仕上がりとなります。光と影の輪郭が滑らかで、ハイライトが強調されすぎないため、被

nikkor club
nikkor club

ポジションを変えて自分好みの光を探し出す

辺りは強い光で照らされ、強い影が発生していた。日影で弱い光に満たされた塀を構図のメインに配し、静寂さを呼び起こすような感覚で撮っている。強い光の下であっても、太陽の位置を意識して日陰を見つけることで、穏やかな印象の写真を撮影することが出来る。
Z f・NIKKOR Z 40mm f/2

自分好みの光にカメラ内の機能を使い引き出すことも可能だ

弱い光の元であっても、被写体には明暗が存在する。露出補正を行い、ピクチャーコントロールの調整画面で「コントラスト」の数値を高め、「明るさ」の数値を下げることで、光と影の〝存在〟を引き立たせた。それにより、弱い光により感じられるシーンの静けさ、明暗の差によりシルエットとなった被写体の力強さの共存を狙った。
Z f・NIKKOR Z 40mm f/2

写体の特徴や細部を美しく引き立たせることができます。

撮影時の光の状況や目的に合わせてコントラストの強弱を意識して撮影することにより、モノクロ写真でも多様な印象を与えられ、豊かな表現力の作品が生み出されるのです。

光の強さで表現をコントロール

コントラストの強いモノクロ写真は、見る者へ強烈なインパクトを与えるとともに、力強く、鋭い感覚を強め、緊張感のある写真になるのが特徴といえます。

逆に、コントラストが低いと優美で柔和な感覚を与えやすく、被写体の質感やディテールを繊細に表現しやすい特徴があります。

また、光の強弱をそのまま表現に活かす方法とは別に、露出補正を行なったり、カメラ内の機能「ピクチャーコントロール」を自分好みに調整して、ハイライトとシャドーの濃度をコントロールすることでさまざまな状況下であっても理想とする仕上がりに導くことが出来ます。

モノクロ写真の魅力を引き立てる手段として、被写体や撮影のコンセプトに合わせて光の質を選び、必要に応じてカメラ内の機能も活用していただきたいです。

（右ページ上）

強烈なインパクトを与える強い光

早朝のビル街、空に向かってカメラを構えたことにより、被写体はシルエット化された。晴れた日の朝や夕方の太陽が低い位置にあるタイミングは、被写体にくっきりとした影が発生しやすく、また影が長く伸びて存在感を増す。強い光と影が作り出すモノクロの世界は、力強く、強烈な印象を与える力を持っている。
Z 6Ⅱ・NIKKOR Z 14-24mm f/2.8 S

（右ページ下）

柔らかな光で質感やディテールを繊細に表現

この日は晴れ。ただ、日陰の路地裏には柔らかな光で満たされており、コントラストが低くなったことで、静けさや穏やかさが感じられた。ジョウロの汚れや傷を質感豊かに写しとめることで、長く使い込まれているであろう被写体の「時の経過」を演出しようと思った。
Z 6Ⅱ・NIKKOR Z 50mm f/1.8 S

柳を編む作業を見学にきた人を手前にわざと入れ込み撮影しました。見学者で画面左右に暗部を作り、ディープトーンモノクロームを使用。暗部の量のバランスで覗き込むような形となり、一層、寺内さんを引き立てることができました。Z f・NIKKOR Z 40mm f/2・f/4・1/250秒・ISO1600　ディープトーンモノクローム

Chapter 3

山口規子がおすすめする

Zfが可能にする モノクロの幅広い表現力

山口規子＝写真・解説

多彩な表現力で

モノクロ写真の世界を再発見

今秋に発売になったZf。新た加わった「ディープトーンモノクローム」と「フラットモノクローム」という2つの機能により、モノクロのトーン表現が格段に広がりました。モノクロームの表現力を広げ、モノクロ撮影を追求するために、ぜひチェックしてほしい機能です。

トーンが変えられることで広がるモノクロの表現力

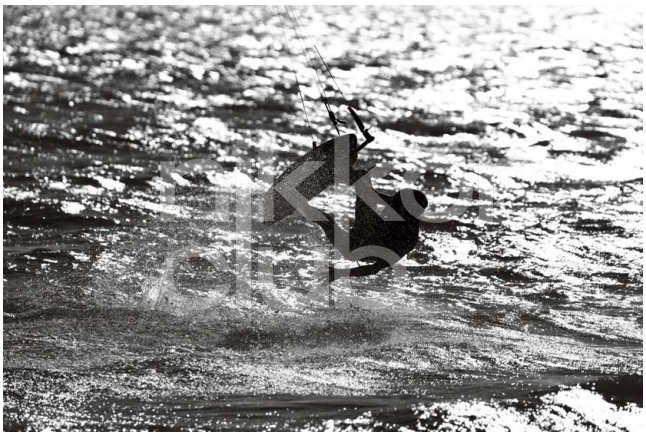
日頃、写真を撮り続けている中で、「これ、絶対！モノクロのほうがいいよね」と思うシチュエーションはありませんか。デジタルカメラであれば撮影後に、簡単にモノクロに変換できる時代です。ではなぜ最初からモノクロ設定で撮るのか。その理由は、その時の気持ちを作品に込めやすいのはもちろん、迷いを吹き消し、自分の視点をモノクロモードにすることができるからです。カラーでは見落としがちな光も意識できますし、何より色に惑わされず、画作りに集中できるのです。

Zfには「ディープトーンモノクローム」と「フラットモノクローム」という2つの機能が新たに加わりました。これは既存のピクチャーコントロールの「モノクロ」の表現からさらに進化したもので、モノクロのトーン表現が格段に広がりました。

カラーでもモノクロームでも、写真の表現を追求するという点においては両者に変わりはありませ

空にも表現の違いを魅せる

暑い夏を表現するために、空が深いグレートーン落ちるディープトーンモノクロームを使用。雲のディテールと道路脇ミラーに映り込んだ雲が同じくらいのトーンで表現したことで、猛暑の夏を表現してみました。Z f・NIKKOR Z 40mm f/2・f/11・1/250秒・ISO100



光のきらめきなど強調できる

海でカイトサーフィンを楽しむ人を撮影。陽が傾きかけてきたところ、逆光でカイトサーファーをシルエットでとらえるためディープトーンモノクロームを使用。これを使用したことにより、水飛沫と波のきらめきの中でのカイトサーファーの躍動感を表現できました。Z f・NIKKOR Z 180-600mm f/5.6-6.3 VR・f/6・1/4000秒・ISO180

New Function

Z f の新機能「ディープトーンモノクローム」を使いこなす

んが、現実にカラーであるものをモノクロームで撮る魅力は「現実の中の非現実」です。そして、人の心の動きや微妙な光を、抽象化、単純化しやすく、事実をより強く表現できる点です。

色がない分、見る人の想像力を掻き立て、作者のメッセージがより深いものとなって伝わる魅力があります。

黒を黒として力強い表現に

「ディープトーンモノクローム」は、被写体を力強く表現したい時や、光量が足らない状況下で、濃淡をつけたい時に便利です。つまり、黒を黒とし表現した時に有効です。しかし、暗部も黒つぶれすることなく、ダークトーンをきちんと再現できる点が嬉しいです。また赤色の感度は高く、青色の感度は低いので、少しクールで透明感のある写真に仕上げることができます。このモードに向いている被写体は、風景や建築物です。風景は青空の部分が深いグレートーンになり、青空に浮かぶ薄い雲も綺麗に表現できます。また雲海なども輪郭がはっきりでて、遠近感が表現できるでしょう。そして岩や鉄筋、錆などの硬い物体などにはもちろんぴったりですが、逆に柔らかい物体、湖などの水面のさざ波や海の波などに迫力を出したい時、またお祭りや働いている人などの躍動感を出したい時にもお勧めです。街角スナップ写真では、ショーウィンドウに映る反射などもクールに表現できます。幅広く使える万能なモノクロモードと言えるでしょう。

黒を引き締め凛とした表現に

柳行李職人の真剣な目にフォーカスし、彼が着ている作務衣や背景を、黒く表現したいためにディープトーンモノクロームを使用。手、腕、麻糸、柳を第2のポイントとして浮かび上がらせることによって、画面全体を引き締め、凛とした空気感を表現できました。Z f・NIKKOR Z 40mm f/2・f/8・1/250秒・ISO1600

New Function

Z f の新機能「フラットモノクローム」を使いこなす

質感やディテールを表現できる

「フラットモノクローム」は柔らかい光を、そのまま柔らかく表現したい時や、被写体のグラデーションをより細かく表現したい時、またその場の空気感を重要視する時に用います。白から黒までのトーンを強調感なく緩やかに表現できるのが特長です。特に中間調における描写は繊細で、被写体の細部が正確にわかります。白黒がはっきりする写真が好きな人にとっては、「なんだか軟調だなあ。ねむい写真だなあ」と思うかもしれませんが、ディテールの表現を見ると、このモードの虜になるはずです。向いている被写体は、肌のなめらかさを出すポートレートや、空気感を大切にするスナップ、また淡い光の室内空間や暗部が多い風景、そして柔らかい毛並みを持つ動物などです。メリハリを抑えた「フラット」な調子なので、暗部が多い画面構成でも、優しい印象になります。そして、繊細な光のディテールや被写体の質感が手に取るように分かる、しっとりとした表現ができます。

空気感の表現が豊かに

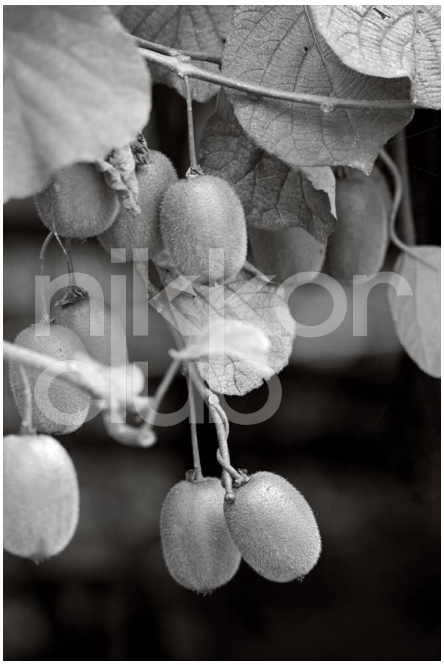
ネコの毛並み、特に白い部分の質感を表現したいためフラットモノクロームを使用。柔らかい光が注ぐ午後の時間。まったりとしたネコとネコのやわらかなボディ、そしてその周りの空気感を表現してみました。Z f・NIKKOR Z 40mm f/2・f/5.6・1/30秒・ISO1600

柔らかく自然体に表現

兵庫県豊岡市出石町にある有子山稲荷神社には、いくつもの鳥居が立ち並ぶ参道があります。光が差込むと、鳥居や階段の硬さがカチッと強調されがちですが、「フラットモノクローム」により、それらが柔らかくナチュラルに表現できました。
Z f・NIKKOR Z 40mm f/2・f/2・1/500秒・ISO100

細かなディテールも描写

江戸文字を描く「描き屋」職人の工房は暗めだったため、わずかな光でほのかに浮き上がった工房内のディテールを大切にしながら、手元の灯を活かしてフラットモノクロームを使用。彼を包み込む静寂な時間を表現しました。Z f・NIKKOR Z 40mm f/2・f/2・1/60秒・ISO100



New Function

瞬時に現場で切り替えて楽しむモノクロ専用レバー

表現力がアップする魔法のレバー

Z fは、FM2をベースとしたデザイン。長年のニコンユーザーにとっては懐かしいデザインだと思うことでしょう。カメラ上部にあるシャッター速度を変えるダイヤルはカチッという音は、写真を始めたころの初心に帰らせてくれます。そのシャッターダイヤルのところに、モノクロ専用レバーが付いています。このレバーを「B&W」に合わせるだけで、モノクロ写真に切り替わる優れものです。被写体を見た瞬間、光を見た瞬間、これはモノクロだ！と思った時に、瞬時に変えられるのが魅力です。カラーの世界とモノクロの世界を行ったり来たりできる魔法のレバー。「これはモノクロだ」と潔く決めたあとは、自分の表現したいイメージに集中できます。このレバーは撮影をスムーズにするだけでなく、撮ったその場所で、作品を完成形に近づけておくことの大切さ、そして、次に何を撮るべきかという判断のしやすさなどを気付かせてくれるレバーでもあります。

(右) より細かい質感の表現を狙って

栃木県足利市で見つけたキウイ。たわわになっているキウイがとても可愛く思えたので、カラーで撮影しましたが、撮影していくにつれ、キウイの表面にある毛羽まで表現したくなり、モノクロに切り替えてみました。モノクロにすることにより、背景が黒くおちて、コロンとしたキウイの形や表面の毛羽立ちも強調できました。 Z f·NIKKOR Z 180-600mm f/5.6-6.3 VR·f/5.6·1/60秒 ·ISO100

(左) 光と空気感をより表現する

淡い色の干菓子をグラスに入れて撮影していた時、優しい光に変化しました。そこで、干菓子自体よりも、この光と空気感を表現したくなり、急遽モノクロに切り替えて撮影。色のない干菓子は、色がない分、見る人の想像を膨らまし、幻想的で不思議な世界を作ることができます。 Z f·NIKKOR Z 40mm f/2·f/2·1/250秒 ·ISO400

質感をより表現するために

かんざしを作る職人。金色のかんざしを作っていたので、始めはカラーで撮影していましたが、モノクロに切り替えて撮影。すると、かんざしの一部となる部品の質感がより一層引き立ち、またモノクロにすることにより、職人の手の生々しさを軽減することができました。
Z f·NIKKOR Z 40mm f/2·f/6.3·1/60秒 ·ISO1600

カラーからモノクロへすばやく切り替え

柳行李職人が自ら柳の栽培をしている柳畑。1年で人の背丈あまり伸びる柳は、夏に青々とした葉をつけます。柳の生命力とその日の気温を表現するために、あえてモノクロに切り替えました。職人の麦わら帽子が白いポイントとなり、空は深いグレーになり、より一層、暑さを強調出来ました。 Z f·NIKKOR Z 28mm f/2.8·f/8·1/500秒 ·ISO100

秋山華子 × Zf

Z f・NIKKOR Z 40mm f/2・f/6.3・1/250秒

西暦何年に
撮影されたのか
わからなくなるほど
Zfは
懐かしい程合いに
定着してくれる